リスクに効く心理学



NO.9
リスクの社会的増幅

中央大学
CHUO UNIVERSITY
大友章司

1 リスクイベントから社会問題へ波及

リスクの社会的増幅(social amplification of risk: Kasperson et al., 1988)

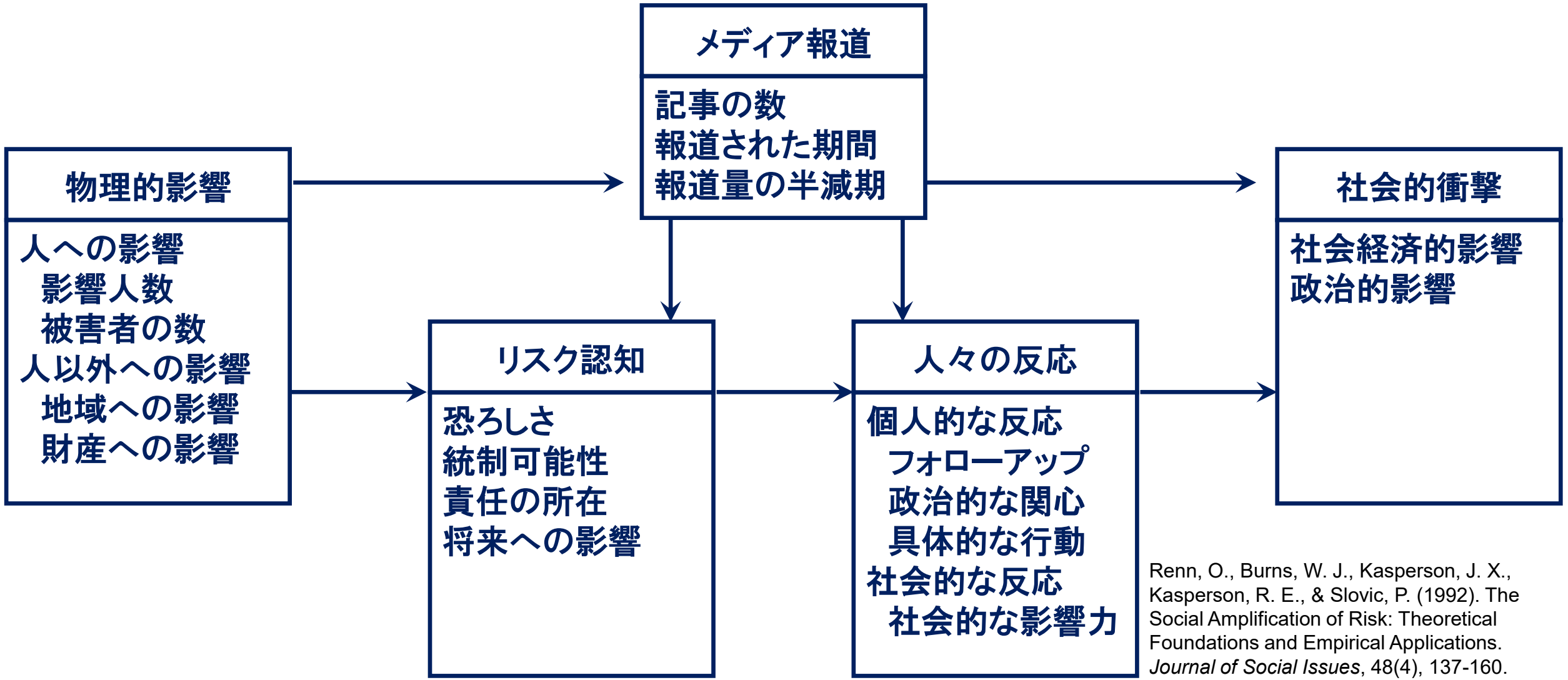
ある1つのリスクイベントが起こることによって、その影響が社会全体に波紋のように増幅され、広がっていくこと。

Kasperson, R. E., Renn, O., Slovic, P., Brown, H. S., Emel, J., Goble, R., Kasperson, J. X., & Ratick, S. (1988). The Social Amplification of Risk: A Conceptual Framework. Risk Analysis, 8(2), 177-187.



>社会的増幅の因果関係のモデル(Renn et al., 1992)

リスクイベントによる物理的影響が、リスク認知や人々の反応から社会的衝撃につながるだけでなく、メディア報道によって増幅される。



Renn, O., Burns, W. J., Kasperson, J. X., Kasperson, R. E., & Slovic, P. (1992). The Social Amplification of Risk: Theoretical Foundations and Empirical Applications. *Journal of Social Issues*, 48(4), 137-160.

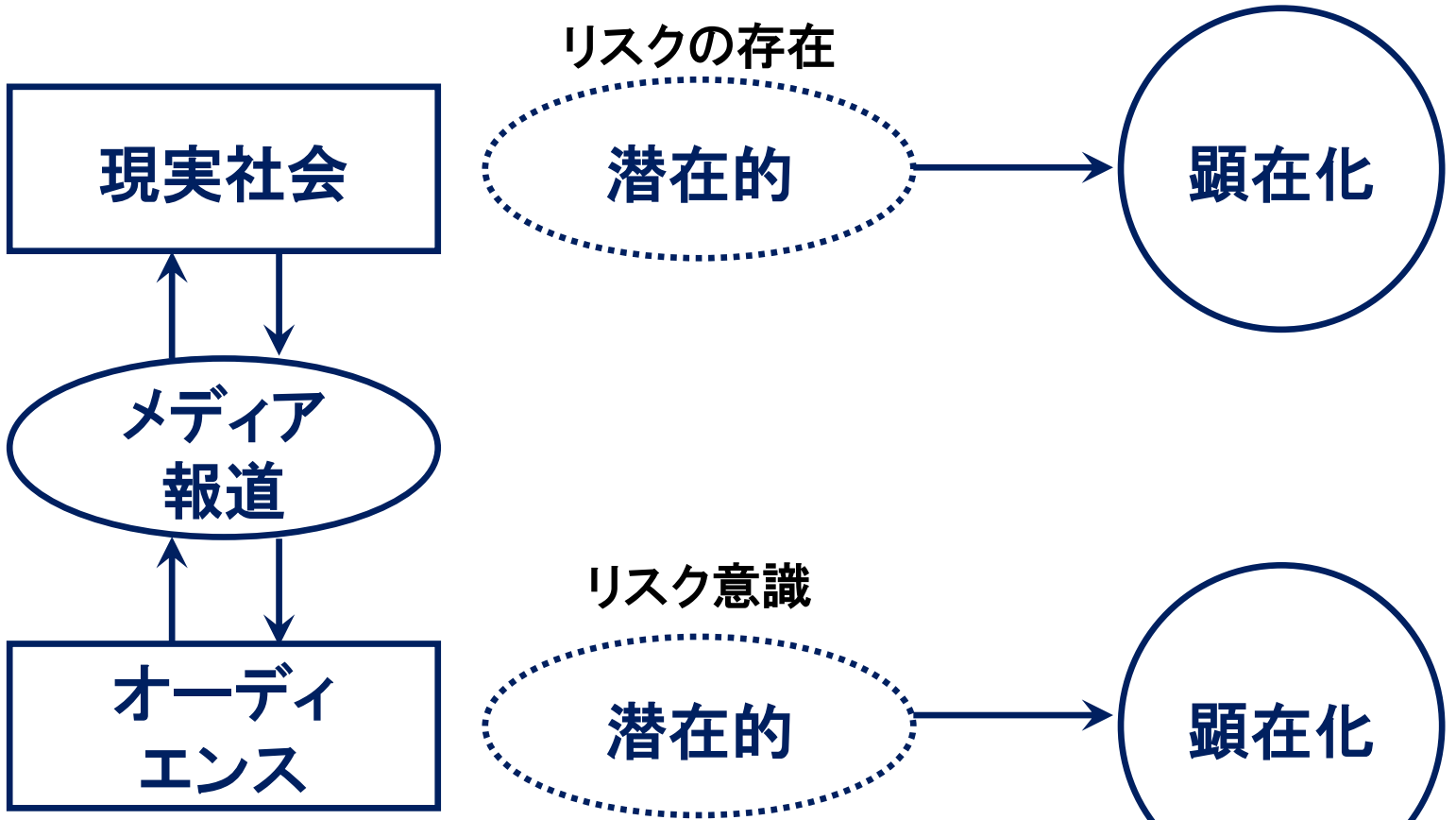
2 リスクとメディア

メディア・スクラム（集団的過熱報道）

危機事態における報道では同じ出来事に報道が集中する。

報道格差の問題：報道される地域とされない地域で、支援や復旧に格差。

風評被害の問題：震災の報道で周辺の観光や農産物がダメージを受ける。



リスク顕在化のメディア報道モデル：福田充. (2010). リスク・コミュニケーションとメディア―社会調査論アプローチ. 北樹出版

3 災害とデマ

災害発生後の時間経過によるデマ(流言)を分類(Kimura & Iwao, 2020)



災害起因情報

「震源地は〇〇だ」、「人工地震だ」

災害の再来

「再び〇月に地震が起きる」、「もう地震はこない」

災害による被害(1次被害)

「ダムが決壊した」、「自宅の下敷きになっているので助けて！」

災害による被害(2次被害)

「窃盗団が略奪をしている」、「工場爆発で有害物質の雨が降る」

災害対応

「有名人が被災地の外に避難した」、「物資の空中投下がなされる」

被災地での生活

「放射能にはうがい薬が効く」、「避難所を出たら仮設住宅の入居資格がなくなる」

Kimura, R., & Iwao, A. (2020). Study on Features of Rumors Generated at the Time of Disaster: Characterization of Actual Rumors. 17th World Conference on Earthquake Engineering Conference Proceedings, No.7f-0002, 11pp.

>デマを見抜くための対応(堀, 2025)

堀 潤 (2025). 災害とデマ インターナショナル新書

1) 実際と異なる被害投稿。



2) 不確かな救助要請



3) 虚偽の寄付募集



4) 根拠のない犯罪情報



アカウントが新しすぎる場合は警戒。フォローの状況(外国語が目立つ等)、アイコン画像(不自然な質感)、プロフィールに他のSNSリンク

偽情報の投稿や意味のない返信をして閲覧数を稼ぐインプレゾンビの問題